

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		GENKI-KIDS風音		公表日		令和8年 1月 27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		限られたスペースではあるが、パーソナルスペースの確保と共に、言語・個別・運動・SST等のプログラム毎に部屋を整えることで、より有意義な時間を過ごせている。各部屋に狙いや目標が設定されており、こどもに分かりやすい環境である。	今後も、工夫しながら必要なスペースの活用をしていきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		保育士・ST・児童指導員(社会福祉士)の有資格者を基準以上に配置し、きめ細かく手厚い支援を心がけている。	より良い支援のために、人員だけでなく適切な支援が行えるよう、研修等の機会を設け職員の専門性を更に高めていきたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		建物の構造上、ハード面でのバリアフリー化には限界があるが、事業所において安定した時間が過ごせるよう、視覚支援による情報の見える化や障害特性に応じた見通しの提示を行うなど、ソフト面での工夫を行っている。	今後も文字と合わせて写真や絵カードなどを利用した、分かりやすい構造化を含め、利用者に配慮した設備や動線を整備していきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃はもとより、過刺激につながらないよう、落ち着いた環境調整に努めている。感染症対策として、換気や必要に応じてマスクを着用する等対応している。	今後も継続して行い、こどもたちが心地よく安全に過ごすことができるよう努めていきたい。 また、本年度も来年度利用希望の保護者に対して施設見学会を実施した。今後も感染症の動向を見ながら継続していきたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		活動ごとに部屋が分かれているため、使用していない時は希望に応じて使用することが出来る環境である。	今後もこどもの様子を観察し、見極めた上で、必要に応じて個別の部屋や場所を提供していきたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員研修や日々の利用時間の終了時に、口頭にて振り返りを行い、個々に応じた具体的な支援内容や課題等の共通理解を図っている。	今後も職員間で連携を深め、職員の積極的な参画を目指していきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員研修の中で保護者評価表を確認し、意見・意向を把握する機会を設け、業務改善について話し合いをしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々、職員間で意見や対応の仕方などを話す環境を整えており、業務改善・工夫につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は行っていない。	今後必要に応じて検討していきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		今年度も、外部講師による研修(ペアレントトレーニング養成講座)を行った。また、法人として施設内研修を月1回程度実施し、課題整理や問題点の話し合いを行っている。	今後も感染症の動向をみながら、職員研修の実施や講習会等への参加に努めていきたい。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		言語療育、個別療育、SST、感覚統合などを組み合わせ、遊びを通してこどもが楽しく活動できるようにプログラムを作成している。(ホームページにて公表済)	新年度の案内の際に、より詳しくプログラムを公表している。また、今後もこどもの様子を観察した上で、スモールステップによる成功体験を積み重ねていけるよう、支援プログラムの作成に努めていきたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		困った時に、すぐに話ができるよう、保護者の方々との関係性づくりに努めている。日頃の様子や、面談でのアセスメントと合わせて、困り感に則した計画の作成に努めている。	保護者の思いに寄り添うとともに、客観的なアセスメントができるよう、職員の専門性を高め、情報共有すると共に、日々の気づきを促していきたい。 今後も、保護者の思いを聞く時間をしっかりと確保していきたい。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々の支援の共通理解だけでなく、モニタリング時の会議及び、個別支援計画作成時に、現況を職員間で把握できる機会をリアルタイムで設けている。		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々の振り返りを実施し、利用者の課題や成長に応じた段階的な支援等、支援者の共通認識に努めながら、個別支援計画に明記されている課題に添った支援を推し進めている。	保護者との情報共有に努めながら、家庭や活動の中でのこどもの様子や課題に対する到達度を、適宜職員間で共有し、有益な関わりを行っていききたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		発達検査の結果等から、発達の凸凹の理解をすると共に、日常の個別対応の療育プログラムにおいて、成長や課題を把握できるように留意している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		モニタリング時の面談や、事業所での様子を踏まえ、個々に応じた支援内容が設定できるよう留意している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当職員を主にして、職員の意見やアイディアを参考にしながら、こどもに応じた楽しく取り組めるプログラムの作成を行っている。	現状を維持しながら、より適切な支援へ上げていけるよう、こども達が楽しみながら取り組めるプログラムを工夫していききたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		動と静、個人と集団など、活動にメリハリを設けると共に、それぞれの発達や目標に合わせたプログラムの工夫を行っている。その時々の子どもの興味関心、流行も加味しながら教具や玩具を整えることで、意欲的に活動に取り組めるよう心がけている。	今後もこどもたちの発達に合わせたプログラムに配慮しながら、固定化すべきものは継続しつつ、その時々の子どもの興味関心に応じたプログラムの工夫を行っていききたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		事業所でのこどもの状況を、常に把握できるよう心がけ分析することで、個別、集団毎の支援内容が的確に設けられるよう努めている。必要に応じて関係機関との連携内容も加味している。	引き続きこどもの課題や置かれている背景等を考慮しながら、関係機関との連携も合わせて、集団、個別毎の計画の作成に努めたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		プログラムや活動スペース毎に課題や利用者に応じた担当職員を決めて、役割分担を行っている。誰もが分かりやすいよう、写真や絵カード等でプログラムや担当職員を提示している。	今後も継続して行い、職員同士の意見を出し合い、情報共有し、より良い支援につなげていきたい。職員の持ち味や利用者との相性を活かした、役割分担にも配慮していききたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		ケース記録の記入時に、個々の利用者に応じた支援の振り返りを行いながら、意見を出し合う中で、次の支援につながる共通理解を図っている。	今後も継続して行い、共通理解を深めながら統一した支援ができるよう努めたい。職員間での、発言しやすい関係づくりにも留意していききたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援の記録（ケース記録）と合わせたその時々振り返りと合わせて、モニタリング時やケース会議等で、支援内容の見直しや検証を行っている。	今後も、モニタリング等の機会に合わせた検証や改善と、利用毎のケース記録の記入と共に、リアルタイムでの課題設定を行っていききたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		リアルタイムでの相談と合わせて、基本、6か月に1回、モニタリングとアセスメントを実施し、個別支援計画の見直しを行っている。	保護者の願いと支援者の思いを考慮しながら、利用者の困り感が支援計画に反映されるよう努めます。利用者や保護者に寄り添った支援が行えるよう、家庭や教育機関での様子も考慮した計画の見直しを行います。
関係機関や	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が、各種会議への出席を行っている。	今後も、こどもの様子を日々のケース記録や職員から情報収集し、サービス担当者会議において、有意義な話し合いができるよう努めたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		日頃から保健センター、医療機関、障害福祉課、子育て支援課、学校園等と連携し、情報共有、共通理解に努めている。	今後もこどもや保護者のニーズや課題を把握し、関係機関と連携して支援を行っていききたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		多機能型事業所の強みとして、必要に合わせて、保育所等訪問支援を実施すると共に、電話や訪問等でリアルタイムでの支援内容等の情報共有を行っている。	今後も個々の必要性や保護者の要望に応じて、関係機関との連携に努めます。日頃より、関係機関との信頼関係が築けるよう、日常的なつながりを大切にします。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前の学校見学や相談会など、要望や必要に合わせて同席し、就学における保護者の不安が減るよう、学校との連携や情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				

保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		本年度も、児童発達支援センターたんぼぼ、上郡ランチと連携を取りながら支援を行った。当事業所では対応できないことに関しては、関係各所と連携を図りながら、支援の充実に努めている。	今後も、職員の資質向上につながる研修や、利用者のニーズに応じた関係機関との連携に努めていきたい。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	それぞれの所属団体において、交流を図れていることから、事業所としては意図的に設けていない。	今後必要に応じて検討していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		事業所利用の送迎時に、意識的に話をする機会を設けている。また、随時、電話やメールによる相談も受け付けている。	保護者との情報交換を行い共通理解できるよう、送迎時と合わせて、電話やメール等での対応もお便り等で周知していきたい。遠慮なく相談できる体制づくりに努める。
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		昨年度に引き続き、今年度も希望者に対して外部講師によるペアレント・トレーニングを行った。	来年度も開催を予定している。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		支援内容については個別支援計画の見直し時に説明を行い、利用者負担等については契約時と変更時に文書でお知らせしている。	引き続き実施していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画を作成する前には必ず保護者と面談を行い、こどもの様子を含め、家族の意思を確認する機会を設けている。	引き続き実施していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談時及び、日々の相談において、課題の共通理解ができるよう、時間を設けている。	引き続き実施していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		メールや携帯電話により、悩みごとや、困ったことができた時に、リアルタイムに話を伺える体制を整えている。	相談等は困った時にリアルタイムで受けられる体制を整えると共に、今後も適切な助言ができるよう、職員のスキルアップを目指し、支援につなげていきたい。事業所だけで対応できない場合は、専門機関等へつなぐことで、対応の幅を広げていきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	父母会等は、保護者の負担を考慮して設けていない。事業所主催の保護者同士の交流の場は感染症の予防の観点から実施できていないが、本年度実施したペアレントトレーニングでは、参加保護者同士の関わりを深めることができた。	今後必要に応じて検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談があった際は、保護者の気持ちに寄り添いながら、迅速に適切な対応ができるように努めている。また、苦情対応窓口を設置すると共に、いつでも話が聞ける体制に努めている。	苦情を受けた場合は、こどもや保護者の思いに真摯に向き合い、迅速に解決を目指したい。苦情対応についての周知も図ってきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		活動概要や行事予定、連絡体制等の情報については、月1回のお便り「げんきつきーず」を作成し、配布している。	広報誌の発行と合わせて、必要に応じて文書にてお知らせする。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについては、保護者の方の許可をいただいてから、連携を図るようにしている。	今後も、個人情報の取り扱いには十分に気を付けていきたい。緊急時等の個人情報の取り扱いについても定めていきたい。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ユニバーサルデザインに努めながら、それぞれに合わせた意思の疎通や、情報伝達を心がけている。保護者の方への大切なお知らせは、いつでも確認し直せるよう、文書やメールも合わせて活用している。	今後できるだけ保護者の気持ちに寄り添いながら、伝達手段と合わせて、丁寧な対応を心がけていきたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	直接的な交流はないが、自治会への参加及び、新年に合わせて挨拶に伺い苦情や要望がないか尋ねたり、事業所運営に関する理解と協力をお願いしている。	今後必要に応じて検討していきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルの策定を行い、玄関に設置している。必要に応じて文書でお伝えしているが、保護者の方への周知は不十分と感じている。	保護者の方への周知に努めながら、警報発令時は営業休止の判断を行い、火災、地震等の予測できない災害に対しては、電話やメールで状況や対応の伝達をおこなってきたい。

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、イベントに合わせた避難訓練や、子ども達には、紙芝居等を用いて周知を行っている。	引き続き実施していく。お便りや連絡帳等を通して、保護者の方との情報共有にも努めていきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約の際に必要な情報を聞き取りし、対応を把握した上で、てんかん発作等の対応方法を誰でも分かりやすい箇所に掲示している。	引き続き実施していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーに関しては、ケース記録内のフェイスシートに保護者に記入していただき、必要に応じてケース記録の表紙に明記する等、誰でも分かりやすい箇所に表示している。	食事提供はないが、おやつ提供時に今後も十分配慮していきたい。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		職員会議で、安全管理について共通理解する機会を設けていると共に、ヒヤリハットの事例に合わせて、必要な対策を講じている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	お便り「げんきっきーず」でお知らせし、玄関に設置している。	引き続き実施していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		細やかなことでも、ヒヤリハットに記入し、職員間で共有することで、事故を未然に防げるよう努めている。事例の発生時には、口頭にて職員への周知を行っている。	職員間の事例共有と合わせて、怪我なく、安心して利用できる環境整備を行います。研修等で、過去のヒヤリハット事案を職員間で共有する機会を設けるなど、再発防止に努めます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		名前の呼び捨て等、虐待と捉えにくい行為に関しての周知を行うと共に、虐待につながらないための、セルフチェックを心がけている。	今後も、虐待防止啓発のための研修や会議を行うことで、こどもの人権侵害の防止に努めていきたい。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		今現在、身体拘束を行う利用者はいないが、今後やむを得ず身体拘束を行う事案が生じた場合は、保護者への適切な説明と合わせて、個別支援計画に明記していく。	今後必要に応じて適切な対応を心がける。